

---

京都大学  
ティーチング・アシスタント  
アンケート結果報告書  
(平成22年度実施)

---

京都大学教育制度委員会  
平成24年3月

京都大学では、本学の教育上の基本理念「対話を根幹とした自学自習」を推進するための一つの方策として、第二期中期計画において、ティーチング・アシスタント(以下TA)の拡充を推進することとしています。

このことを受けて、教育制度委員会では、本学におけるTAの活用状況を確認するため、全学的に教員およびTA経験者に対してアンケート調査を実施し、このたび「京都大学ティーチング・アシスタント アンケート結果報告書」にまとめましたので、ご高覧いただければ幸いです。

京都大学教育制度委員会

「第2次大学院教育振興施策要綱」(平成23年8月5日)においても、「大学教育の質を高めるため、TAの取組を充実し、修士課程・博士課程(前期)等の教育活動の中で組織的に推進する」ことが掲げられています。

## 目 次

1. TAアンケート..... 2  
(対象:平成22年度前期科目でTAを経験した大学院生)
2. TA活用状況アンケート..... 6  
(対象:教員)
3. 参考資料.....13  
(実施・回答状況、アンケート様式)

# 1. TAアンケート

(対象:平成22年度前期科目でTAを経験した大学院生)

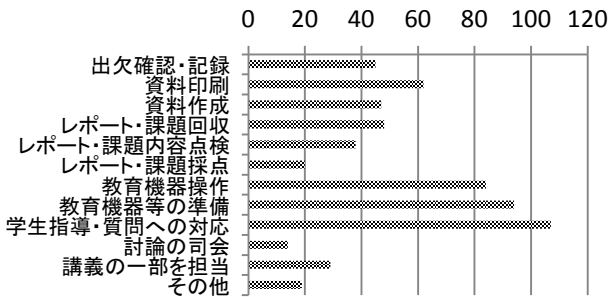
## Q1. TAとして担当している業務を選択してください。【複数回答可】

TAが担当する業務としては「学生指導・質問への対応」が最多となっている。

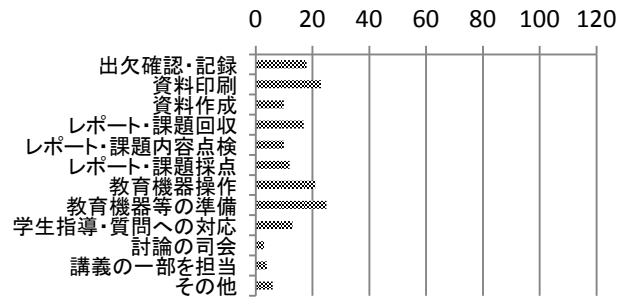
ただし、科目形態「講義科目」については、その割合が低い。

(科目区分「全学共通科目」は、17件の回答のうち13件を講義科目が占めているため、同じく「学生指導・質問への対応」の割合が低い。)

全学・全科目・全形態



全学・全科目・講義



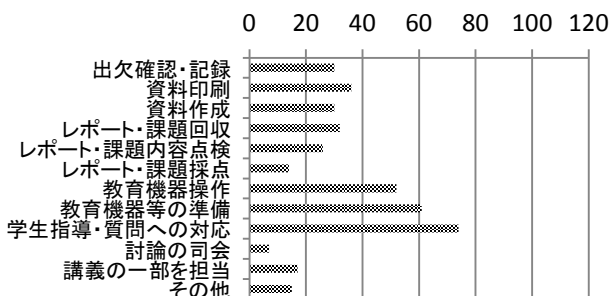
全学・全学共通科目・全形態



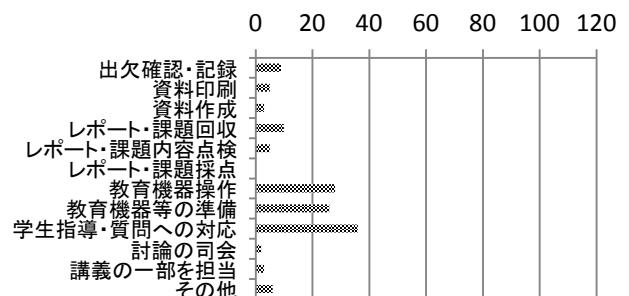
全学・全科目・演習



全学・学部科目・全形態



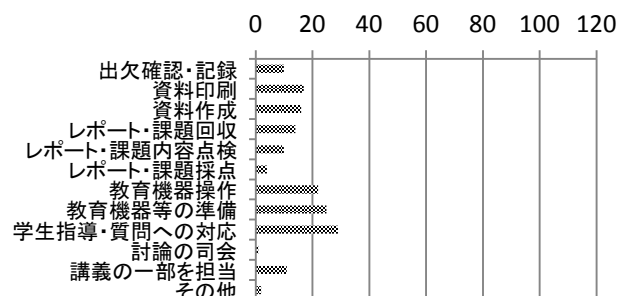
全学・全科目・実験



全学・大学院科目・全形態



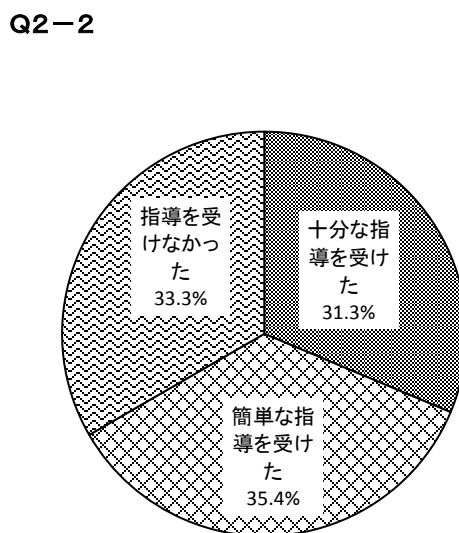
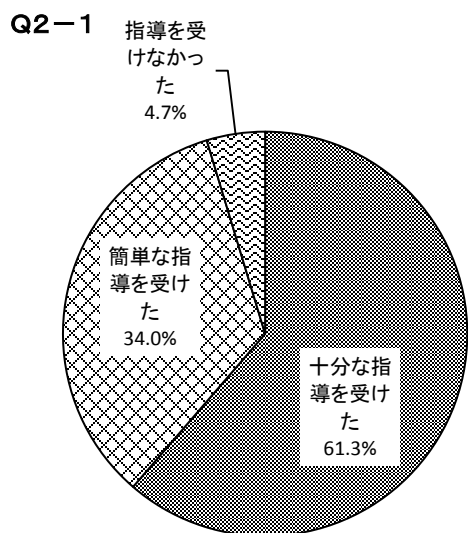
全学・全科目・実習



**Q2-1. 担当教員から授業内容に関する指導を受けましたか。****Q2-2. 担当教員から学生に対する態度、言葉遣いなどの指導を受けましたか。**

担当教員からの授業内容に関する指導の状況については、「十分な指導を受けた」「簡単な指導を受けた」を合わせると95%強となり、ほとんどの科目でTAに対するフォローが行われていることが分かる。

一方、学生に対する態度等についての指導については、全体の33%のTAが「指導を受けなかった」と回答している。「指導を受けなかった」TAのうち、「学生指導・質問への対応」等、学生と直接関わる業務を担当している割合は52%であり、「十分な指導を受けた」「簡単な指導を受けた」をあわせた79%と比して低い。指導者としての態度を身に付けさせるための配慮が望まれる。

**Q2-3. 担当教員との打合せ時間(指導を含む)はどのくらいありましたか。**

指導を受けた場合の担当教員との打合せ時間は、週当たり平均1.3時間、多い場合で2時間30分前後、短い場合で30分前後が多かった。中には5時間との回答もあったが、全体的な傾向としては、講義科目よりも演習・実験科目の方が多く、業務内容との関連を伺わせる結果であった。

### Q3-1. 担当科目でTAを担当して自分のメリットになったと思いますか。

「大いにそう思う」という回答が50%を超え、「ある程度そう思う」も含めると92%の学生が、TAを担当することは自分自身のメリットになると考えている。

また、メリットとして挙げられている主な意見は下記の通り。

#### 主な意見

基礎的知識の復習ができた / 専門的知識が習得できた /  
教育経験を積むことができた / 自身の研究に役立った /  
教員・後輩とのコミュニケーションの場が得られた /  
給料が得られ、研究活動や生活に役立った

#### 【基礎的知識の復習】

- ◆ 以前受けた授業のTAを担当したため復習になった。指示に従って課題を作成・採点することで先生がどのように指導しているか知ることができた。
- ◆ 教えることによって自分の知識が整理され、また、質問によって今まで思いつかなかった見方で現象を捉えることができる場合があること。
- ◆ 4回生で履修したときにはまだ知識も不十分で、言われたとおりに実験を行うだけであったが、TAとして授業に参加した今年は実験の原理が理解できたと感じている。また、自分が修論の実験を行う際にも使用する実験器具の扱いにも慣れた。
- ◆ 教員による講義の内容を聞くことで、自分の知識を整理することができた。また当該科目では、学生が資料を整理し、報告をする機会があったのだが、報告内容に対する教員のコメントを聞くことで、適切なコメントの仕方を学ぶこともできた。
- ◆ 学部生を指導することで、自身の講義内容に対する理解を更に深めることができた。また、教員に比べて最近実際に講義を受ける側の立場にいたので、学生のわかりにくそうな点に対しあらかじめ対処できた。その他にも、同じ専攻分野の後輩と面識ができたことは今後に向けてよかったと思う。

#### 【専門的知識の習得】

- ◆ 自分自身が関心を寄せている内容の講義だったので、多くの知見を得ることができました。また、自身の研究のプレゼンをさせていただくという、貴重な時間も頂きました。

#### 【教育経験】

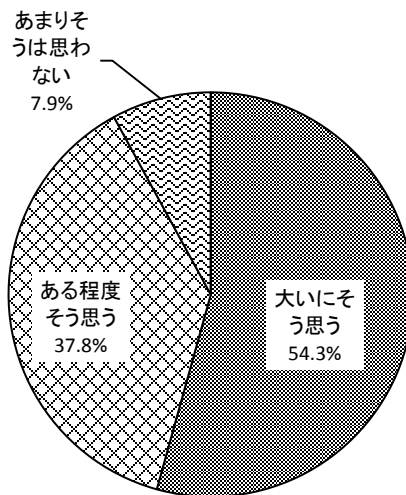
- ◆ 分かりやすい指導法、予期せぬトラブルが発生したときの対処法など、場当たり的に効率的な対応を自身で考えることは、普段の研究生活では経験できない貴重なものであった。
- ◆ 修士課程の学生では、発表の内容を如何に分かりやすく纏めるか、という点も重要になってくる。発表用資料のチェックを依頼された時は、内容の正確さは勿論、如何にすれば分かりやすくなるか、も見ており、その経験はそのまま私自身の発表用資料作成の修正時にも活かされた。
- ◆ 学部生を指導する立場を体験できたことで、教育に携わる喜びを味わうとともに、人に教えることの難しさを痛感できた。また、どのように指導するのがよいのか、指導できるだけの教養が自分に身についているかなど、さまざまなことを考えながら演習に参加でき、自己研磨にも繋がった。就職面においても、教歴ができたことで、非常勤講師としての勤務先が見つかるなど、大いに役立った。
- ◆ 資料の製作、印刷、配布を通じて、ひとつの授業を作り上げてゆく過程の一端を学ぶことができた。また、学生を指導し、質問に対応する際には、積極的に議論の場を設けることで、指導力、コミュニケーション能力を向上させることができ、議論の内容は自身の研究にも大いに有用なものであった。

#### 【コミュニケーション能力】

- ◆ 外国語学習及び専門知識の習得
- ◆ 他の学年の学生と触れ合える良い機会だった。

#### 【収入】

- ◆ 研究活動のための資金を得ることが出来た。
- ◆ 十分な給料が得られた。



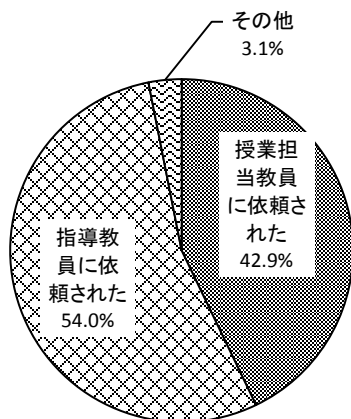
### Q4-1. TAを引き受けた理由(切っ掛け)は何ですか。

指導教員や授業担当教員に直接依頼されたことによりTAを引き受けた大学院生が96%と、圧倒的に多かったが、「前任者から引き継いだ」「自ら志願した」との回答もあった。

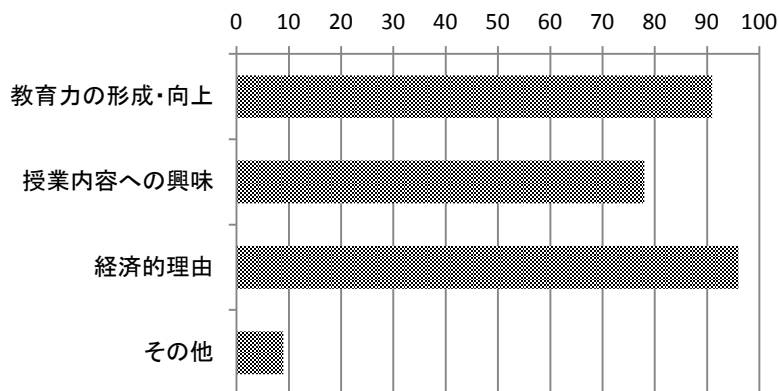
### Q4-2. TAを行った目的は何でしたか。【複数回答可】

「経済的理由」と並んで、「教育力の形成・向上」や「授業内容への興味」が大半を占めるが、その他として、「順番(持ち回り)であった」との回答もあり、教育体験としてTAを経験することを課している場合もあるのではないと思われる。

Q4-1

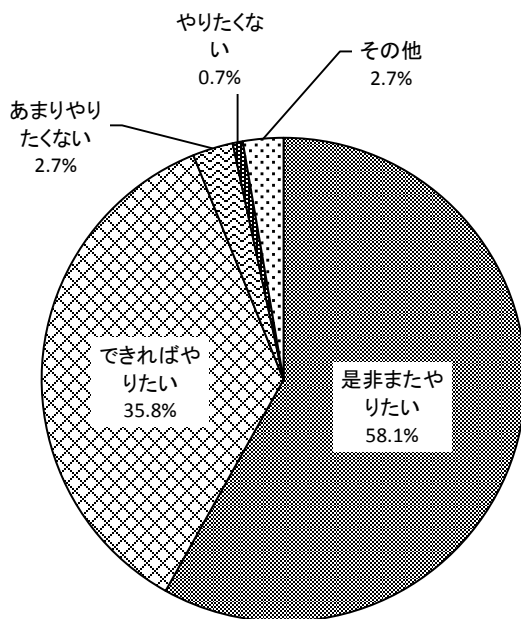


Q4-2



### Q5. 今後もTAの仕事をしたいですか。

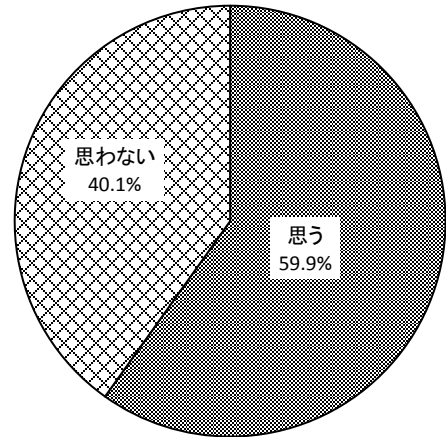
94%が「是非またやりたい」「できればやりたい」と回答している。その他の意見としては、「自分自身の研究との兼ね合い次第」という意見があり、TAを務める大学院生の負担には常に配慮する必要がある。



## Q6. 学部3・4回生の時に下級生を指導する仕事があればやってみたかったですか。

現状では、TAは大学院学生に限られているが、教育効果の観点やTA候補者の不足等の理由により、学部学生もTAとして任用できるようにしてはどうかとの意見もある。

本件については、制度上解決すべき課題もあるものの、当事者となる学生の意向を聴取するために質問に加えたが、TA経験者の意見としては「思う」との回答が60%であった。



## Q7. TAの仕事についてご意見があればお聞かせください。

- ◆ TAの仕事は、学生が社会経験をする良い機会だと思います。
- ◆ 時間と経済力に制限がある学生には良い制度だと思います。
- ◆ 学部生がTAの院生を知ることができるという点が、研究室を選ぶ上でいい機会であると思う。
- ◆ 自分の能力を高めるのに役立ちました。よい制度だと思います。
- ◆ 指導側の学生もその実験の知識が深まり、指導の仕方も身につくので、指導する側、される側双方の学生の成長につながると思う。  
また私の指導教官にかなり自由に指導させてもらったので、それも良かったと思う。
- ◆ 研究者を目指すにしろ、実務の世界で活躍するにせよ、資料を準備しひとつの場をコーディネートすることや、自分が持っている知識、情報を正確簡潔に伝達する能力は必要不可欠である。TAの仕事にはそのような能力を訓練するために適切な内容が数多く含まれており、自身を向上させる絶好の機会である。今後もこのような機会があれば積極的に参加したいと思う。
- ◆ 人に教えてみて初めてわかることも多いと思うので、単なる教員補助制度ではなく、学生教育活動の一環として位置づけてみたら面白いと思います。
- ◆ TAは講義の補佐役であるが、学生に対し歳が近く、質問などが先生方に比べてしやすい存在である。TA制度により多くの学生が指導する側に立てば、指導側の学力向上もさることながら、指導される学生の学力向上の方がより期待できると考えられ、安定した教育環境が構築できると思います。
- ◆ 人に教えることで自分の知識を点検・確認していくというプロセスは研究生活を行っていく上でも貴重な経験だと考えます。また経済的に困窮している学生が多い状況のなかで、TA制度が今後も拡大・充実されていくことを強く望むものです。
- ◆ 桂キャンパスと吉田キャンパスの往復が大変でした。  
指導教員の先生に頼まれたら断れません。やりたい人を公募してもいいのでは？
- ◆ TA制度が、真に何を目的としているかははっきりすべきかと思っています。単なる教務補佐なのか、それとも大学院生の教育能力の向上を目的とするのか、などです。もし、後者がTA制度の目的であるならば、もっとそういった要素を前面に出すべきだと思います。前者が目的であるならば、それは研究室ごとに必要性に差があると思いますので、その点は考えるべきだと思います。
- ◆ もっとTAをやりたいが、なかなか機会が少ないです。指導教員だけではなく、他の先生や事務の方からも紹介していただけると嬉しいです。
- ◆ 勤務期間が短期間であることが多いので、長く続けたい人のために、長期間にわたるTAの仕事を設けた方がよいのではないかと思います。
- ◆ とても勉強になることが多く、面白かったです。先生方の姿勢にも感銘を受けました。給料があがればやりたい人が増えるのではないかと思います。
- ◆ TAの仕事はありがたいです。時給も悪くないですが、やはり時間数が少ないと思います。
- ◆ 報酬がやや少ないと思う。

# 2. TA活用状況アンケート

(対象: 教員)

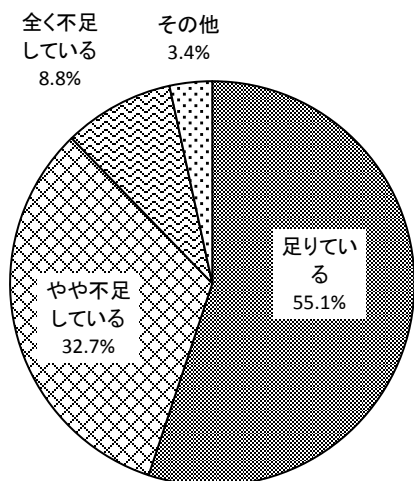
Q1. TAの活用経験はありますか。

回答120名中、118名にTAの活用経験あり。

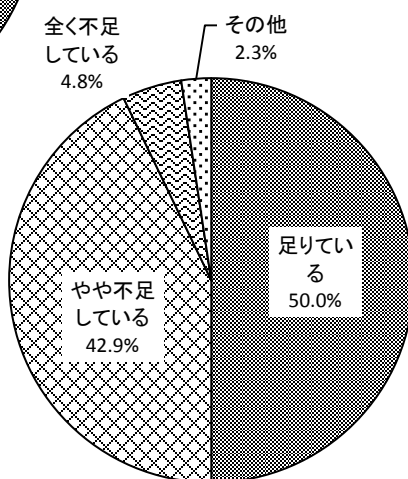
Q3. 授業を進める上で必要なだけTAを採用することができますか。

全体で見ると「足りている」という意見が過半数を占める。ただし、科目形態別に見ると「講義」では66%が「足りている」が、「演習」「実験」科目では50%となり、実習科目については40%と低くなっている。よりきめ細かい指導を必要とする科目形態への支援強化が望ましい。

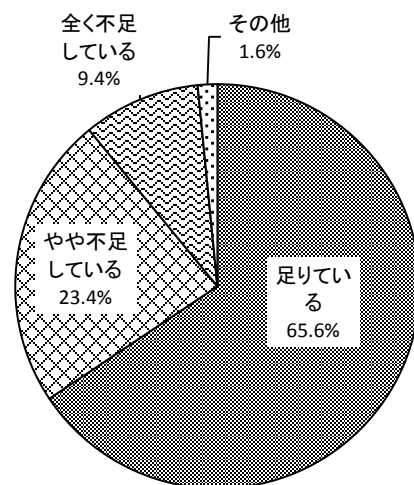
全学・全科目・全形態



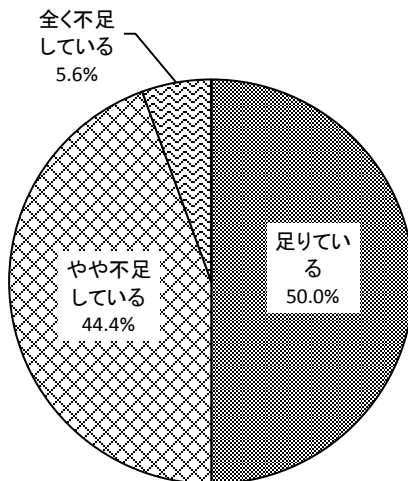
全学・全科目・演習



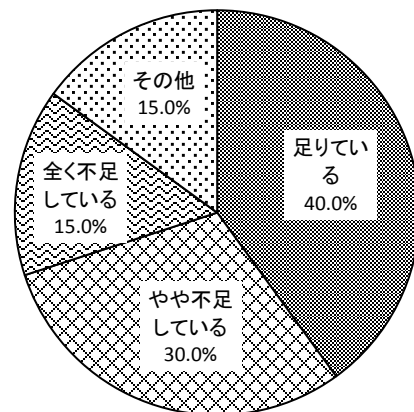
全学・全科目・講義



全学・全科目・実験



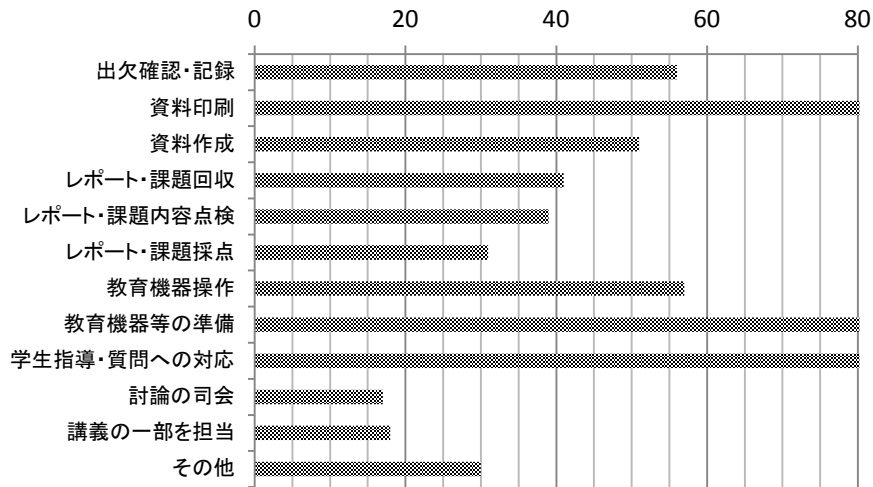
全学・全科目・実習





#### Q4-1. TAに依頼されている業務を選択してください。【複数回答可】

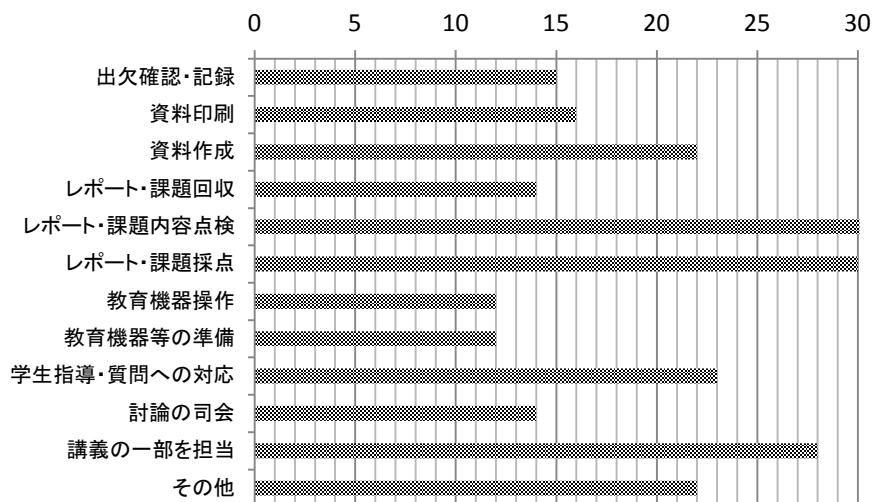
半数以上の科目で「資料印刷」「教育機器等の準備」「学生指導・質問への対応」を依頼されている。



#### Q4-2. 今後TAに依頼してみたい業務を選択してください。【複数回答可】

担当教員が、TAに依頼したいと希望している業務を明らかにするために、「Q4-2. 今後依頼してみたい業務」の回答結果を「Q4-1. TAに依頼されている業務」と比較したところ、「講義の一部を担当」「レポート・課題採点」「レポート・課題内容点検」「討論の司会」の項目で152%～82%の増の高い値となった。

このことは、担当教員がTAに対して「出欠確認・記録」や「レポート・課題回収」等の単純な作業だけでなく、授業内容に深く関わることを期待しているといえる。



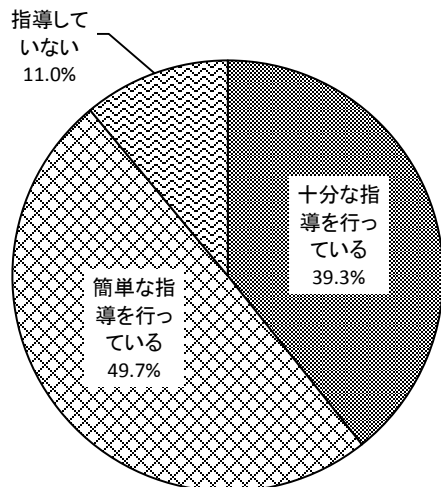
Q5-1. 担当科目のTAに対して授業内容に関する指導を行っていますか。

Q5-2. 担当科目のTAに対して学生に対する態度、言葉遣いなどの指導を行っていますか。

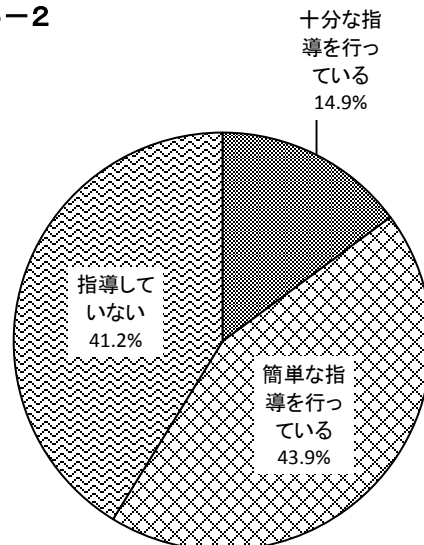
学生を対象としたQ2-1、2-2に対応する質問である(ただし、同一科目のTAと教員双方が回答している訳ではないので、直接の関連はない。)

授業内容については、「十分な指導を行っている」「簡単な指導を行っている」とする教員が89%を占めている。学生に対する態度、言葉遣いなどについては、41%が指導を行っていないと回答されている。

Q5-1



Q5-2

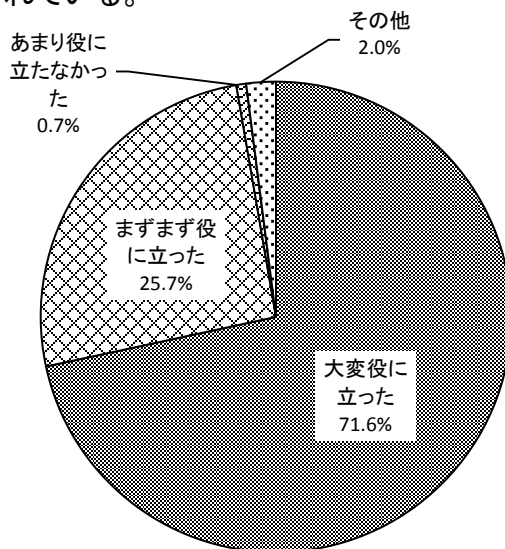


Q5-3. 担当科目のTAとの打合せ時間(指導を含む)はどのくらい取っていますか。

TAとの打合せ時間は平均0.9時間。概ね0.5時間～2.0時間の間である。

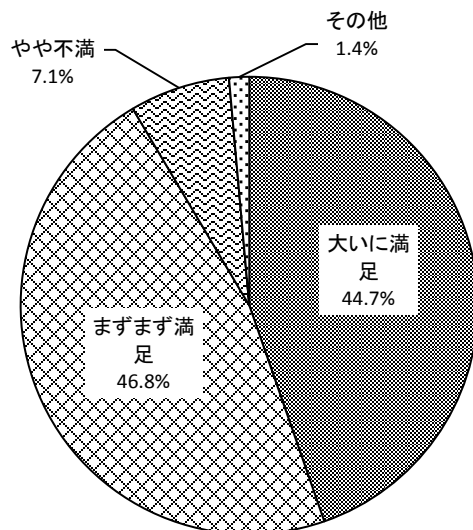
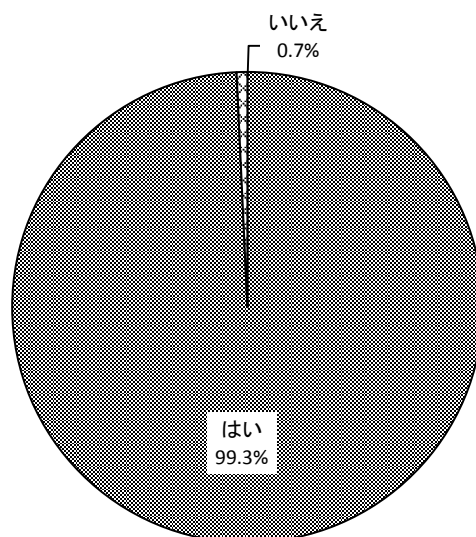
Q6. 担当科目でTAを使用した感想はいかがですか。

「大変役に立った」との回答が70%を超え、「まずは役に立った」を含めると、97%強の教員が「役に立った」と回答されている。



**Q7. 担当科目で使用しているTAの授業補佐能力に満足されていますか。**

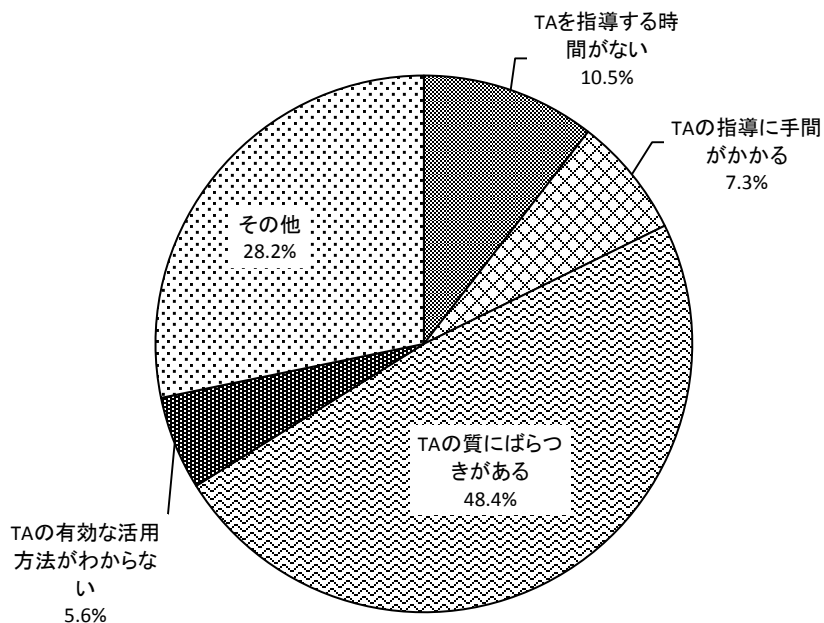
Q6との比較で分析すると、TAを「大変役に立った」と捉えている場合でも、その能力については必ずしも「大いに満足」している訳ではないとの状況が伺え、この結果は後述のQ9にも現れているのではないかと考えられる。

**Q8. 今後もTAを使い続けたいですか。**

### Q9. TAを使用する上での課題はありますか。

Q6～Q9の結果を総合すると、TAの活用については「役に立つ」「大変役に立つ」と捉えているものの、その能力には「大いに満足」している訳ではなく、学生の能力に依存するためどうしても「質にばらつきがある」点が問題ではあるが、その指導に手間や時間がかかる点が大きな課題となっている、との大勢が伺える。

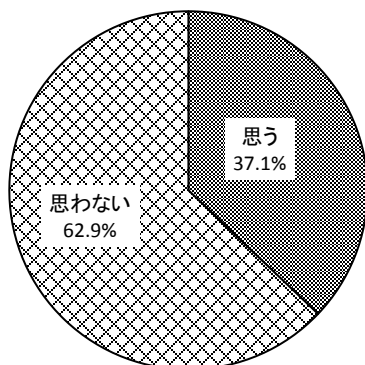
これは、TAの指導が現状では教員個人に任されており、大学院学生の教育指導能力を伸長するための制度としては十分に確立したものとはなっていないことを伺わせる。



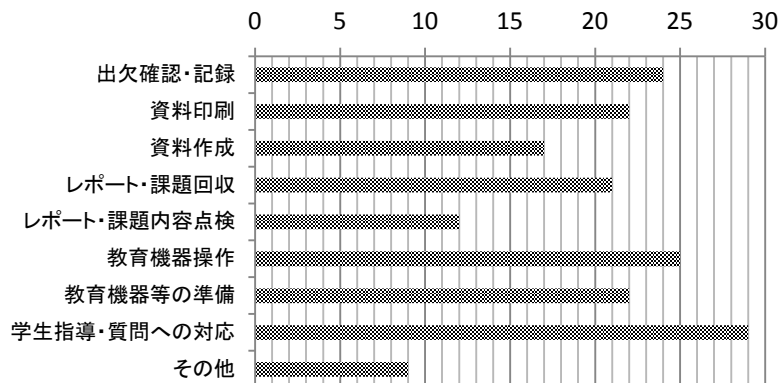
Q10-1. 学部1・2年対象の科目において、学部3・4年の優秀な学生に授業の補助等を依頼する枠組みがあれば利用したいと思われませんか。

Q10-2. Q10-1で「思う」と回答された場合、どのような業務を依頼されたいとお考えですか。【複数回答可】

Q10-1



Q10-2



## Q11. TAの使用についてご意見があればお聞かせください。

### 【予算・人員の更なる充実について】

- ◆ TA制度は、教員の教育活動の労度を軽減し、学生の研究活動を財政的に支援する上でも、非常に重要な制度なので、一層の拡充を希望する。
- ◆ 配分時間数を増やして欲しい。少なくとも、受講学生数に見合う人数を雇用できるようにしてほしい。100人あたり最低一人は必要である。
- ◆ 特に、多数の学生を同時に対象とする学部(3年生)の実験指導においては、貴重な存在である。指導にあたるTAも、指導することでこれまで学んだことを改めて理解する機会となる。講義科目よりも学部の実験演習により多くのTAを配置していただけるとありがたいと考えます。(ここでの回答は、TAとして雇用した者に対する回答ですが、実際には、雇用していない学生にも学部の実験指導を依頼しています。)
- ◆ 特に演習・実験科目では十分な数のTAの補助が必要です。大学院生のTAによって学部生と大学院生のコミュニケーションが生じるほか、TAを担当する学生にとっても、勉強になり指導経験にもなるなどの効果があると思われます。
- ◆ TAを、教育スタッフに準じて使うためには、英米のそのように、職務に見合う待遇が必要に思う。月8万円程度の収入になるなど。
- ◆ 採用可能人数(予算枠)の決定が年度開始直前ですが、もう少し早くすれば演習計画の立案時に役立つことができると思います。
- ◆ 奨学金制度が貧困な現状において、多少なりとも学生の経済支援を行える意味がある。また、学生にも単に奨学金として受け取る事以上に、大学での教育現場を学生と教授の間に立って支える事のできる意味があると思います。
- ◆ あれば便利だが、本来教育は教員の職務であり、教員だけで行うものであってもよい。したがって、過大な予算をTA経費とすることには反対。

### 【重要性について】

- ◆ 科目によって有用性が違う。専門科目については非常に有用。
- ◆ ポケットゼミのような講義では、TAが研究室での研究を紹介したりして、学部1年生に勉強の良い動機付けを与えている。
- ◆ 今のところ所属研究室では、実習でTAを頼んでいます。2年生の実習では準備と実習中の大人数への対応のために、3年生の実習でも準備とより内容の多い質の高い実習内容をきめ細かく指導するためにTAの補助は必要不可欠です。  
以前在籍したことのある米国の大学では院生のTAが、毎週受講生からの宿題に関する質問を受けたり、宿題の採点を行ったりしていた。これが受講生の講義内容に関する理解を大いに助けていたので、見習ってよいことではないかと思っている。
- ◆ 北米の大学では、学生実験業務(実験内容説明・指導・レポート採点など)のほとんどをTAにまかせています。博士後期課程の学生には、そのレベルの業務を課してもよいかと存じます。  
また、学生実験とは関係ありませんが、学部定期試験の監督をTAにまかせてもよいかと存じます。

**【採用について】**

TAに採用される機会が公平とは言えないと思います。

この科目では7人のTAに採点をお願いした。数学的な能力に関してはそれほど大きな問題は感じなかったが、教育活動に主体的に携わる意識という点で、個人差がかなり大きいと感じた。教育活動に積極的なTAを確保することで「教員の負担の軽減」「授業の質の向上」「TAの教育経験増進」が図れれば、教員・TA・学生すべてにとって理想的だと思います。

京大の院生であれば、能力はある程度期待できるので、教育業務に(半年間継続して)携わるやる気のある人を雇って欲しい。採用・管理する側の手間が増えるかもしれないが、自動的に院生を割り振るよりは、応募制にして特にやる気のある人には複数科目お願いしても良いのではないのでしょうか。

**【指導について】**

教育の質を確保するために、まず、TAの教育が必要となる。

プレFDとして、大変効果があると思う。他大学で学部講義の一部を大学院生に担当させたこともかつてあるが、その場合は相当の事前の準備と指導が必要となる。1コマの授業に10時間ほどをかけて指導したことがあるが、指導する甲斐はあると思う。

**おわりに**

ティーチング・アシスタント(以下、TAとする)制度については、従来、大学院生に対する経済的な支援制度として認識されがちでしたが、今回のアンケート調査によると、TAの活用は、大学院生に対して教育経験を得る機会を提供するとともに、学部学生へのきめ細かい指導を実現することによって学士課程教育の質の向上にも資するということが明らかになりました。

これらのことは、「学士課程教育の構築に向けて」(平成20年12月24日中央教育審議会答申)及び「グローバル化社会の大学院教育」(平成23年1月31日中央教育審議会答申)等においても指摘されているところであり、また、本学の第二期中期目標・中期計画にも掲げられている通り、TAの拡充は本学の教育改善に大きく貢献することが期待できます。

また、同時に本学の教育の質向上のためには、より効果的なTAの活用が求められるところであり、まず、本アンケート調査と平行してTAの優れた活用事例の収集を行い、「京大TA活用事例集」として平成24年3月に提供を開始しましたので、本報告書とあわせてご活用ください。

# 3. 参考資料

## 実施・回答状況

TAアンケート、TA活用状況アンケートはいずれも抽出調査とし、各研究科教務担当から回答者の所属専攻等のバランスに配慮の上、下記人数を目安に回答依頼が行われた。

- ・工学研究科: 30名程度
- ・理学研究科・農学研究科: 各20名程度
- ・その他の研究科: 各10名程度(TAの雇用人数が10名に満たない場合、可能な限り多数)

各アンケートの回答状況は以下の通り。

### TAアンケート

人数	120 人
件数	152 件

内、全学共通教育科目	17 件
学部専門科目	97 件
大学院科目	38 件

内、講義	41 件
演習	42 件
実験	39 件
実習	30 件

内、文学研究科	8 人
教育学研究科	4 人
法学研究科	5 人
経済学研究科	2 人
理学研究科	13 人
医学研究科	1 人
薬学研究科	16 人
工学研究科	23 人
農学研究科	21 人
人間・環境学研究科	6 人
エネルギー科学研究科	5 人
アジア・アフリカ地域研究研究科	5 人
情報学研究科	3 人
生命科学研究科	3 人
地球環境学堂	5 人
公共政策大学院	0 人
経営管理大学院	0 人

### TA活用状況アンケート

人数	120 人
件数	154 件

内、全学共通教育科目	41 件
学部専門科目	81 件
大学院科目	30 件
不明	2 件

内、講義	67 件
演習	43 件
実験	19 件
実習	20 件
不明	5 件

内、文学研究科	5 人
教育学研究科	3 人
法学研究科	5 人
経済学研究科	6 人
理学研究科	19 人
医学研究科	4 人
薬学研究科	5 人
工学研究科	18 人
農学研究科	20 人
人間・環境学研究科	12 人
エネルギー科学研究科	4 人
アジア・アフリカ地域研究研究科	7 人
情報学研究科	4 人
生命科学研究科	1 人
地球環境学堂	7 人
公共政策大学院	0 人
経営管理大学院	0 人

※1人あたり複数科目についての回答があるため、回答件数と人数は一致しない。

## アンケート様式

### TAアンケート

教育制度委員会では、平成22年度前期にTAとして勤務された方々に、TAの業務内容やその感想等についてのアンケートへのご協力をお願いしております。皆さまからいただいたご意見は、今後のTA制度の充実のための検討の際の資料として活用させていただきますので、ご協力のほどお願いいたします。

- ・所属研究科・専攻名： 研究科 専攻
- ・課程・学年：博士年 / 修士年
- ・担当科目の区分：全学共通教育科目 / 学部専門科目 / 大学院科目
- ・担当科目の形態：講義 / 演習 / 実験 / 実習

Q1. TAとして担当している業務を選択してください。【複数回答可】

出欠確認・記録 / 資料印刷 / 資料作成 / レポート・課題回収 / レポート・課題内容点検 /  
レポート・課題採点 / 教育機器操作 / 教育機器等の準備 / 学生指導・質問への対応 / 討論の司会 /  
講義の一部を担当 / その他(具体的に)

Q2-1. 担当教員から授業内容に関する指導を受けましたか。

十分な指導を受けた / 簡単な指導を受けた / 指導を受けなかった

Q2-2. 担当教員から学生に対する態度、言葉遣いなどの指導を受けましたか。

十分な指導を受けた / 簡単な指導を受けた / 指導を受けなかった

Q2-3. 担当教員との打合せ時間(指導を含む)はどのくらいありましたか。

週あたり平均時間： 時間

Q3-1. 担当科目でTAを担当して自分のメリットになったと思いますか。

大いにそう思う / ある程度そう思う / あまりそうは思わない / 全くそう思わない

Q3-2. どのようなメリットがありましたか。(Q3-1. で「そう思う」と回答された方)【自由記述】

Q4-1. TAを引き受けた理由は何ですか。

授業担当教員に依頼された / 指導教員に依頼された / その他(具体的に)

Q4-2. TAをした目的は何でしたか。【複数回答可】

教育力の形成・向上 / 授業内容への興味 / 経済的理由 / その他(具体的に)

Q5. 今後もTAの仕事をしたいですか。

是非またやりたい / できればやりたい / あまりやりたくない / やりたくないその他(具体的に)

Q6. 学部3・4回生の時に下級生を指導する仕事があればやってみたかと思ったと思いますか。

思う / 思わない

Q7. TAの仕事についてご意見があればお聞かせください。【自由記述】

以上



## TA活用状況アンケート

京都大学では、対話を根幹とした自学自習の支援体制を強化するため、ティーチング・アシスタント(TA)拡充の推進を、第二期中期計画に掲げています。このたび、教育制度委員会では、今後のTA制度の充実に向けた方策を検討する際の資料として活用させていただくため、平成22年度前期にご担当科目でTAを使用した先生方に、TAの業務内容や感想等についてのアンケートへのご協力をお願いすることとなりました。大変ご多用のところとは存じますが、上記の趣旨をお汲みいただき、ご協力いただきますよう宜しくお願い申し上げます。複数科目でTAを使用した場合は、お手数ですが全ての科目について、個別のシートで作成いただきますよう、お願いいたします。

- ・所属研究科・専攻名： 研究科 専攻
- ・職 名：教授 / 准教授 / 講師 / 助教
- ・担当科目の区分：全学共通教育科目 / 学部専門科目 / 大学院科目
- ・担当科目の形態：講義 / 演習 / 実験 / 実習

Q1. TAの使用経験はありますか？

はい→Q2以降の設問全てにご回答ください / いいえ→Q9、Q10、Q11の設問にご回答ください

Q2. TAの使用経験回数を教えてください。(1学期・1科目で1回と数えます)

回

Q3. 授業を進める上で必要なだけTAを採用することができますか。

足りている / やや不足している / 全く不足している / 必要ない / その他

Q4-1. TAに依頼されている業務を選択してください。【複数回答可】

出欠確認・記録 / 資料印刷 / 資料作成 / レポート・課題回収 / レポート・課題内容点検 / レポート・課題採点 / 教育機器操作 / 教育機器等の準備 / 学生指導・質問への対応

Q4-2. 今後TAに依頼してみたい業務を選択してください。【複数回答可】

出欠確認・記録 / 資料印刷 / 資料作成 / レポート・課題回収 / レポート・課題内容点検 / レポート・課題採点 / 教育機器操作 / 教育機器等の準備 / 学生指導・質問への対応

Q5-1. 担当科目のTAに対して授業内容に関する指導を行っていますか。

十分な指導を行っている / 簡単な指導を行っている / 指導していない

Q5-2. 担当科目のTAに対して学生に対する態度、言葉遣いなどの指導を行っていますか。

十分な指導を行っている / 簡単な指導を行っている / 指導していない

Q5-3. 担当科目のTAとの打合せ時間(指導を含む)はどのくらい取っていますか。

週あたり平均時間： 時間

Q6. 担当科目でTAを使用した感想はいかがですか。

大変役に立った / まずまず役に立った / あまり役に立たなかった / 全く役に立たなかった / その他(具体的に)

Q7. 担当科目で使用しているTAの授業補佐能力に満足されていますか。

大いに満足 / まずまず満足 / やや不満 / 大いに不満 / その他(具体的に)

(次ページに続く)

Q8. 今後もTAを使い続けたいですか。

はい / いいえ

Q9. TAを使用する上での課題はありますか。

TAを指導する時間がない / TAの指導に手間がかかる / TAの質にばらつきがある /  
TAの有効な活用方法がわからない / その他(具体的に)

Q10-1. 学部1・2年対象の科目において、学部3・4年の優秀な学生に授業の補助等を依頼する枠組みがあれば利用したいと思われますか。

思う →Q.10-2 / 思わない →Q.11

Q10-2. Q10-1で「思う」と回答された場合、どのような業務を依頼されたいとお考えですか。【複数回答可】

出欠確認・記録 / 資料印刷 / 資料作成 / レポート・課題回収 / レポート・課題内容点検 /  
教育機器操作 / 教育機器等の準備 / 学生指導・質問への対応 / その他(具体的に)

Q11. TAの使用についてご意見があればお聞かせください。【自由記述】

以上